

災害事例

No.54

炎天下でのマンション建設現場における熱中症

発生年月・時刻 平成22年8月 午後3時40分 被害 死亡1人

事業場規模 1～9人

職種・年齢・経験年数 土工 30歳代 7年

起因物 高温・低温環境

事故の型 高温・低温物との接触

災害発生状況

マンション新築工事現場において、午前10時頃から午後3時頃まで、9階部分の床板のコンクリート打設作業に従事した被災者が、午後3時40分頃外部足場の2層目付近で倒れているところを発見され、熱中症による死亡と確認された。

被災者は、作業終了後外部足場の階段を用い、地上へ降りる途中で倒れたものと思われる。

災害発生当日は現場の夏季休暇明け2日目で、天気は快晴、最高気温37.3℃、最高WBGT（湿球黒球温度）値31.9℃であり、災害発生時の気温は36.7℃、WBGT値は31.8℃であった。

作業場所の9階部分には日陰はなく、通風を行なうための設備もなかった。

被災者は、作業の途中、昼休憩1時間のほか、午前2回、午後1回それぞれ10分程度の小休憩を取っていた。昼休憩は1階に設けられた休憩室で取ったが、それ以外は9階作業場所で休憩していた。

災害発生原因

- ①WBGT値が、WBGT基準値を上回る炎天下において、日除けを設ける等WBGT値の低減を図ることなく作業を行なったこと。
- ②作業途中の小休憩について、適切な休憩場所が確保されていなかったこと。
- ③夏季休暇明け直後で、体が暑さに慣れていなかったこと。

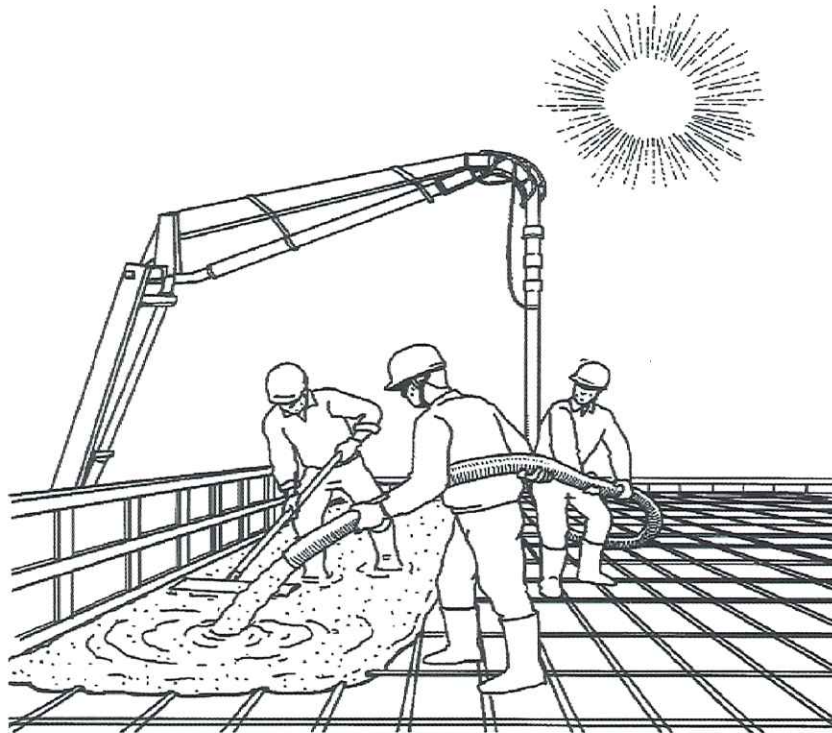
再発防止対策

WBGT値の測定等を行ない、その値がWBGT基準値を超え、または超えるおそれがある場合においては、次の事項に留意し、熱中症予防対策を徹底すること。

- ①炎天下で直射日光を遮るものがない場所における作業においては、シート等で簡易な屋根等を設け、通風を行なうための設備を設ける等によりWBGT値の低減を図ること。
- ②休憩は、冷房等を備えた休憩設備か、日陰等の涼しい場所で取ること。
- ③作業場所や休憩場所には水分や塩分等を備えると共に、摂取状況を確認すること。
- ④計画的に熱への順化（暑さに慣れ環境に適応する）期間を設けること。
- ⑤その他「職場における熱中症予防対策要綱」（大阪労働局策定）に基づいた対策を講じること。

※「職場における熱中症予防対策要綱」は、大阪労働局のホームページ（<http://www.osaka-rodo.go.jp>）に掲載していますので、活用してください。

<発生状況図>



■平成22年 建設業の熱中症災害(休業4日以上)

●全産業で33件、建設業では11件(うち死亡1件)発生しています。

	発生月日	発生時刻	休業日数	性別	年齢	最高気温(℃)	最高WBGT(℃)	発生状況
1	7月6日	14時30分頃	19日	男	57歳	31.3	29.4	木造家屋の改築工事現場において、建物内部のバラシ作業で発生した産業廃棄物の搬出作業中に、体温が上昇して脱水症状となり、意識を失った。
2	7月21日	18時30分頃	7日	男	47歳	34.2	30.2	ガスの導管入替工事が終了し、事務所に帰社した直後に痙攣を起こし、救急車で搬送された。
3	7月22日	9時15分頃	14日	男	48歳	35.3	30.7	校舎の耐震補強工事現場において、校舎内の廊下に敷いていた長尺シートの撤去作業中に気分が悪くなり、しばらく休憩していたが回復せず病院へ搬送された。
4	8月3日	13時40分頃	30日	男	56歳	35.6	31.6	盆踊りの櫓の組立作業中、脱水症状となり、救急車で搬送された。
5	8月3日	14時40分頃	10日	男	59歳	35.6	31.6	校舎建設現場において、断熱材の敷込み作業に従事していたが、現場事務所の外部トイレ付近で倒れているところを発見された。
6	8月18日	14時10分頃	7日	男	48歳	37.3	31.9	地盤調査現場において、ボーリング作業中に気分が悪くなり、しばらく休憩していたが、体調が悪化し、病院で診察を受けた。
7	8月18日	15時40分頃	死亡	男	38歳	37.3	31.9	マンション新築工事現場において、9階スラブコンクリート打設作業が終了し、地上へ下りる途中、外部足場の2層目階段部分で仰向けに倒れているところを発見された。
8	8月19日	11時00分頃	6日	男	62歳	36.6	30.8	民家の屋外で左官工事作業中、突然倒れて意識不明となり、病院へ搬送された。
9	8月20日	10時30分頃	7日	男	53歳	35.8	30.6	鉄道のレールの交換作業中に気分が悪くなり休憩していたが、足がつりそうになり病院へ搬送された。
10	8月20日	16時45分頃	59日	男	53歳	35.8	30.6	集合住宅の新築工事現場において、10階部分のコンクリート打設作業中、屋上スラブ上で倒れているところを発見された。
11	8月31日	16時00分頃	21日	男	42歳	35.5	30.2	給水管の敷設作業中に足に違和感を覚え、しばらく休憩していたが、全身に痙攣が広がり救急車で搬送された。

(資料提供：大阪労働局労働基準部健康課)